

パブリックコメントで寄せられた意見（要旨）と区の考え方

No.	分類	意見要旨	区の考え
1	計画全般	教員が通常業務と並行して部活動の顧問を担っているという現状は限界に達しており、授業を犠牲にしたくない。部活制度の廃止または地域への完全移行を強く希望する。	指導を望まない教員にとって部活動に携わることのない体制の在り方が求められている中、まずは休日の部活動から段階的に地域クラブ活動へ移行し、週休日を中心に教員の負担のない体制を構築し、授業に専念できる環境を整えていきます。また、平日の部活動の地域移行についても、地域連携の取り組みを継続しながら、検討を続けていきます。
2	計画全般	以下の状況を踏まえ、部活動指導や引率を地元民や民間に順次移行していただきたい。 ・マイノリティである部活動業務を希望している職員でなければ、部活動業務は職員にとって負担であること ・地元民で子どもと触れ合うのが好きな人が居ること ・地元民で、フルタイムでなくとも、何かしらの有償労働に就きたい人が居ること	地域連携や地域移行を進めることは、教員の負担軽減と同時に、地域の活性化や子どもたちに専門的かつ多様な指導を提供するために有効ですので、本推進計画に基づき、まずは段階的な休日部活動の地域移行を進めていきます。
3	計画全般	学校で継続する部活動と廃止する部活動をまず決定する。その上で、部活動指導員制度を導入し、地域の協力者を募る。次年度廃止部活は地域に公表し、受け皿希望の団体を募る。上記の方法で、ほとんど解決するのではないかな。	学校部活動の地域移行を進めるうえで、地域クラブ活動に移行する部活については、各中学校と調整して決定していきます。地域クラブ活動の指導者の確保については、区から委託された運営団体が事前に中学校と調整し、中学校の要望に応じた指導者を確保していきます。

4	計画全般	学校職員の働き方や子供の少子化により学校単独での部活動運営が困難になっていると感じている。江東区が提示した学校部活動の地域連携・地域移行に関する計画は良い提案であり、令和 8 年度の施行に向けて頑張してほしい。	本推進計画に基づき、順次休日の学校部活動の地域移行を進め、教員の負担のない体制の構築を目指していきます。また、地域移行により将来にわたり、中学校生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を創出していきます。
5	計画全般	部活動を学校の先生に任せるのは負担が大きく、地域連携・地域移行の計画はとてもいいと思う。教師の負担が増えることで、教員志望者が減少する可能性がある。例えば、新聞の投書では、睡眠時間が不足して退職を余儀なくされるケースが報告されている。授業だけでも忙しいため、部活動の負担を軽減してほしい。	段階的に休日部活動の地域移行を進め、教員の負担のない指導体制の構築を目指していきます。
6	指導者	部活にプロとの交流イベントを増やし、中学生が様々な職種を体験できる機会を提供してほしい。また、指導者の質を確保し、定期的に第三者がチェックする仕組みを導入する、身分が怪しいコーチを排除するための対策を行うなど、安全性を担保してほしい。その分の費用の値上がりは当然だと思う。	区内には多様なスポーツ・文化芸術等の活動団体が存在しています。プロとの交流イベントの創出等、専門性の高い指導者との交流については、運営団体及び地域活動団体と協議し、その可能性を検討していきます。 また、指導者の確保及び質の向上は重要課題であると認識しております。中学校生徒に対してより良い指導が提供できる環境が整うよう、研修機会等の充実を図り、指導者資質向上に向けた取り組みを進めていきます。
7	指導者	部活動が地域クラブ活動に移行した場合、指導におけるトラブル、ハラスメント、体罰などが発生しないか心配である。	指導者の確保及び質の向上は重要課題であると認識しております。中学校生徒に対してより良い指導が提供できる環境が整うよう、研修機会等の充実を図り、指導者の資質向上に向けた取り組みを進めていきます。

8	教員の働き方	休日部活動指導について、教員の働き方改革としてフレックス制や兼業制度を活用すべきである。	地域移行を進めていく上で、指導者としてかかわりたい教員が参加できるよう、関係部署と連携して兼職兼業できる手続きを整理していきます。
9	教員の働き方	部活動は任意加入とすべきである。部活動指導が教員の過度な負担になっているのであれば、民間や地域への移行はやむを得ない。教員の時間外労働には労働基準法に準じて適切な対価を支払うべきで、現行の給特法が時代遅れであり、それが教員採用難を招いている。現在、教員には残業手当や休日出勤手当が支給されていないため、これを見直し、教員が時間外や休日に部活動を指導した場合には江東区が独自に手当を支給するべきである。	教員にとって負担にならない体制を構築する一方、指導者として関わりたい教員が継続して指導できるよう、関係部署と連携し休日の指導を行う際の兼職兼業手続きの整理を検討してまいります。
10	その他	部活動は、土日や長期休みには原則活動しないことを前提とすべきである。子どもを過度に時間的に拘束するのは人権侵害にもつながる。	「江東区立学校に係る部活動の方針（部活動ガイドライン）」では、成長期にある生徒がバランスのとれた生活を送ることができるよう、週ごとの休養日を2日以上に設定するなど、適切な休養日の設定に努めております。これらの設定基準を踏まえ、休日の部活動の地域移行を進めていきます。
11	その他	自閉症や情緒障害の生徒支援の拡充を求める。職員の負担軽減と地域との連携強化につながると考える。	本区では、自閉症や情緒障害をもつ児童・生徒支援のため、自閉症・情緒障害特別支援学級を区立小・中学校に1校ずつ設置しているほか、全校に特別支援教室を設置しております。また、特別支援教育アドバイザーが各学校を巡回し、特別支援教育の充実に取り組んでおります。これらの取組の充実を図るとともに、成果を部活動の地域連携・地域移行にも生かしてまいります。

12	その他	区立中学校の施設管理業務を兼ねながら、部活の外部講師も務めている。自身の経験から、学校と接触する方法が分からず外部指導員になるのが難しいと聞いたことがあるため、その改善策を提案したい。 具体的には、教育支援課が江東区立中学校に対して外部指導員の募集アンケートを実施し、各学校の要望を一括してまとめ、江東区報に掲載する方法を提案。この方法により、地域住民が自分の技術を地域の学校で活かす機会が増えると考えている。 また、部活動の顧問をやりたがらない教員が運動部や文化部で知識がない分野を指導するのは、生徒にとって不適切であると思うので、専門知識を持った外部指導員が必要ではないか。 外部指導員の募集方法を改善することで、生徒たちに充実した部活動を提供できるのではないか。	いただきましたご意見は参考にさせていただきます。なお、外部指導員の活用方法については、区が取り組んでいる地域連携の取組として検討してまいります。
----	-----	--	---